

1 概要

平成28年度は会津八一没後60年記念とし、夏の特別展と秋の企画展でそれぞれ、八一と深い関係にあった人物を取り上げ、八一の趣味人としての一面と、教育者としての姿を紹介した。前者は陶芸家川喜田半泥子との交流を、後者は早大の教え子で映画監督の小林正樹との師弟の交わりを、やりとりされた書簡などでたどった。美術史研究者、書家、歌人として業績を残した八一の、幅広く深い教養に裏打ちされた人間性とその魅力を浮かび上がらせることができた。ただ残念ながら年度を通した入館者数は前年度に及ばず7010人だった(27年度8332人)。

【**展覧会**】特別展「究極の趣味人 会津八一 VS 川喜田半泥子」(28年7月15日～9月25日)は、手紙のやり取りだけの付き合いながら、互いの芸術を認め合った二人の芸術家の「趣味人」たる部分に焦点を当てた。春の企画展「会津八一ふるさとを詠う」(平成28年4月5日～7月3日)は、新潟を詠んだ俳句や短歌、それをしたための書を主体とした展示。秋の企画展「映画監督小林正樹と会津八一」(平成28年10月7日～12月11日)では、八一が教え子小林正樹の生き方やその映画作品にどのような影響を与えたかを、小林監督が八一に宛てた書簡や小林の映像作品を中心に探った。冬の企画展「会津八一と刻字」(28年12月23日～29年3月26日)は、いかに自分の文字を美しく残すかということに腐心した八一の美意識を、残された歌碑原稿で知ってもらうことができた。

【**DVD上映会**】秋の企画展「映画監督小林正樹と会津八一」期間中、小林監督の作品を2本上映した。

【**体験講座**】冬の企画展「会津八一と刻字」に関連して、自分の書いた筆文字を板に刻む刻字講座を開き、参加者には好評だった。観光も体験型に人気が移ってきているという。展示も単に見てもらっただけではなく「体験」「参加」の方法を意識していくことが必要だろう。

【**写真コンテスト**】応募は過去最多の187点。第10回の節目ということで審査委員長の浅井慎平氏からも2点出品していただいた。入賞入選作品展(28年12月～29年3月)では第1回～9回の道人賞作品も併せて展示した。

【**文芸講演会**】各分野から多彩な講師を招いて貴重な話を聞いた。茶道武者小路千家の千宗屋氏は、本阿弥光悦と川喜田半泥子の焼き物づくりの中に流れる「数寄の精神」や、半泥子と心を通わせた八一の美の世界を独自の視点で説いた(28年8月)。その半泥子の芸術について半泥子を顕彰する石水博物館(三重県)の龍泉寺由佳学芸員が、八一との交流については会津八一記念館の喜嶋主査学芸員が講演した。新潟日報読者文芸欄の短歌選者・高野公彦氏は新潟県民の投稿作品の選者としての経験から「風土と短歌」について語り(4月)、俳人蒲原宏氏は若い頃に接した会津八一の思い出をユーモアたっぷりに語った(5月)。八一の研究テーマ「東洋美術」に絡めて、元正倉院事務所長の阿部弘氏からは正倉院の役割について興味深い話を聞いた(10月)。「八一と刻字」展に合わせた中国古代文字研究家の松丸道雄氏の「刻字」についての講演は、父東魚氏と八一の関わりにも話が及び聴衆の関心をひいた(29年3月)。

【**作品購入**】基金を取り崩し、会津八一書と画賛(ともに軸=計800,000円)と会津八一の志賀直哉宛てはがき2通(計80,000円)を購入、所蔵品に加えた。

2、事業の内容

(ア) **展覧会事業** 常設展経費2,736,292円(27年度=1,820,625円=比50%増)。特別展経費4,677,480円(27年度=1,930,422円=比142%増)。注:27年度8、9月のカッコ内は、特別展(8月～9月9日)の入館者数と開催日数。実行委員会形式で行われたことで、期間中の入館料は実行委員会に納められる。合計欄カッコ内は総入館者数と総開催日数。

| | 27年度 入館者数 | 27年度 開催日数 | 28年度 入館者数 | 28年度 開催日数 | 28年度 入館累計 |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 4月 | 589 | 21 | 446 | 23 | 446 |
| 5月 | 613 | 27 | 682 | 26 | 1128 |
| 6月 | 513 | 24 | 435 | 26 | 1563 |
| 7月 | 800 | 18 | 816 | 18 | 2379 |
| 8月 | 0 (1477) | 0 (27) | 850 | 26 | 3229 |
| 9月 | 248 (819) | 10 (9) | 1459 | 26 | 4688 |
| 10月 | 615 | 27 | 390 | 21 | 5078 |
| 11月 | 522 | 25 | 460 | 26 | 5538 |
| 12月 | 263 | 17 | 240 | 14 | 5778 |
| 1月 | 556 | 24 | 425 | 24 | 6203 |
| 2月 | 574 | 24 | 330 | 24 | 6533 |
| 3月 | 743 | 24 | 477 | 23 | 7010 |
| 合計 | 6036(8332) | 241(277) | 7010 | 277 | |

28年度観覧料収入=特別展1,558,070円 常設展1,039,760円(前年度総額3,140,940円)

(イ) 展示事業

【特別展】 會津八一没後 60 年記念特別展「究極の趣味人 會津八一 v s 川喜田半泥子」

会 期：平成 28 年 7 月 15 日（金） ～ 9 月 25 日（日） 開催日数 64 日間

会 場：新潟市會津八一記念館、にいがた文化の記憶館

入館者数：3,031 人

（前年度：東アジア<書の美学>企画展覧会 書之美ヒストリアー藤井有鄰館所蔵名品でつづる -2,296 人）

主 催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日报社、BSN 新潟放送

共 催：公益財団法人にいがた文化の記憶館

特別協力：公益財団法人石水博物館

協 力：浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造

後 援：読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、産経新聞新潟支局

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局

NHK 新潟放送局、N S T、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

八一と同時代に活躍した陶芸家・川喜田半泥子との 2 人展を、当館と石水博物館（三重県津市）の所蔵品の交換展として開催した。二人は一度も相まみえることなく、生涯に 76 通の往復書簡のみの交流を続けた。展覧会は、石水博物館所蔵の八一の書画作品（半泥子旧蔵）や二人の往復書簡をはじめ、八一と半泥子のそれぞれの油絵、俳画、墨蹟、さらには半泥子作陶の焼き物作品、川喜田家旧蔵美術コレクションなどを展示した。会期中、展示作品により親しんでもらおうと、来館者から八一旧蔵の半泥子茶碗にふさわしい銘を募集した。応募総数 96 点の中から 16 人の入賞者を選んだ。展示については、一度も会わない八一と半泥子の書簡を通じた粹な交流をはじめ、新潟では初めて半泥子の茶碗をはじめ書画作品川喜田コレクションをお披露目したこともあり、アンケートには展示作品に感想を述べる人が多かった。半泥子の多彩な趣味と個性豊かな人間性に溢れる作品に来館者が魅了されたと思われる。一方、背の低い人への対応として茶碗の展示方法に課題を残した。

【企画展】 = 記念館自主企画

① 會津八一 ふるさとを詠う

会 期：平成 28 年 4 月 5 日（火）～7 月 3 日（日） 開催日数 78 日間

入館者数：1,657 人（前年度「新収蔵品展」2,515 人）

没後 60 年にあわせて、會津八一と故郷新潟とのつながりを俳句や短歌、書作品などで紹介した。開催前に昭和 4 年に詠んだ全集未掲載の短歌 1 首が発見され、その自筆書の木版印刷などの資料もあわせて公開した。短歌は「あきされば あまりさびしき ふるさとの そらをいろどる はなびなるらし」で、八一が新潟の祭り、花火を詠んだ唯一の短歌となる。これまでの展覧会では新潟をテーマにすると、地元の新潟県民の足が遠のくというアンケート結果が出ていたが、今回も同様だった。また、団体入館者は昨年度の約 6 分の 1 と減少しており、新潟県民、団体入館者の掘り起し作業が必要だったといえる。展示内の解説文や解説会に対する好意的な感想が 6 件あった。また、期間中、新潟日報短歌選者の高野公彦先生、俳誌『雪』主宰の蒲原宏先生にご講演いただいた。

② 小林正樹生誕 100 年 映画監督 小林正樹と會津八一

会期：平成 28 年 10 月 7 日（金）～12 月 11 日（日） 開催日数 57 日間

入館者数：986 人（前年度「會津八一を支えた人々～交流の中で生まれた名品たち～」1,478 人）

小林正樹生誕 100 年プロジェクトの一環として企画した展覧会。小林正樹（1916～96）は、カンヌ国際映画祭で世界 10 大監督の 1 人として功労賞を受賞し、国際的に活躍した映画監督。早稲田大学で美術史を学び、會津八一の薫陶を受けた人物でもある。展覧会では、二人の往復書簡や、遺品類、映画の関係作品資料などを紹介した。映画監督・小津安二郎が小林に頼んで購入した八一の書《游於藝》（鎌倉文学館蔵）なども展示した。このプロジェクトは松竹株式会社を中心に世田谷文学館や岩波書店なども関わっていたが、世田谷文学館で制作した案内パネルや図録を流用するなど連携ができた面と、権利関係や広報宣伝などでうまくいかない面があった。

③ 會津八一と刻字 同時開催 第 10 回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

会期：平成 28 年 12 月 23 日（金祝）～平成 29 年 3 月 26 日（日） 開催日数 74 日間

入館者数：1,336 人（前年度「藝に遊ぶ～詩書画一致の世界～」2,043 人）

八一の書を彫り込んだ商店などの木製看板をはじめ、新聞の題字の金型、自詠の短歌を揮毫した石碑の拓本や銅版など加工された八一の文字を原本の書と併せて展示をした。来館者から、切り貼りしている看板原稿に関心を寄せて看板を興味深く見ることが出来たという感想があった。会期中、刻字体験講座を実施したり、展示室前室に乾拓コーナーを設けたりした。体験型の企画は来館者からも面白いと好評が得られた。展覧会に深い興味を抱くきっかけになったと思われる。写真コンテスト入賞入選作品も、どの作品に短歌と写真がマッチしていたとの来館者の感想もあり、コンテストの趣旨が浸透してきていると思われる。

(展示に対する評価) = 入館者アンケート結果 (○は好評、△は不評)

回答者数 319 名 (回答率 4.6%)

| 展覧会名 | 作品解説の評価 | | 展示量の評価 | | 全体的評価 | |
|-----------|---------|------|--------|------|-------|-------|
| ふるさとを詠う | ○87% | △12% | ○78% | △20% | ○94% | 普通 4% |
| 究極の趣味人 | ○90% | △ 9% | ○84% | △13% | ○97% | 普通 2% |
| 小林正樹と會津八一 | ○90% | △ 8% | ○82% | △15% | ○95% | 普通 5% |
| 會津八一と刻字 | ○89% | △ 8% | ○88% | △11% | ○90% | 普通 8% |
| 合計 | ○89% | △ 9% | ○83% | △15% | ○94% | 普通 5% |

(接客に対する評価) 良い 65% 普通 33% 悪い or 無回答 2%

★総括=作品解説のプラス評価は昨年度から3ポイント増、展示量は1ポイント増、全体的評価も6ポイント増で、展示関係の評価は全て増加した。接客の「良い」も5ポイント増で、受付での細やかな説明、床面の案内・矢印の設置など、来館者目線の対応が功を奏したといえよう。平成27度末に展示室内の照明設置工事を行ったため、明るさに関する苦情は減り、1件だけだった。

(主な来館者) ※当館理事、評議員は除く

- ・4月=歌人・高野公彦氏(21日)、早稲田大学OB会10名(22日)、川上宗雪江戸千家家元、中野進氏、順子氏(24日)、郷土史家山本修巳氏(25日)
- ・5月=大東文化大学中村海洞研究員(2日)、良寛会長谷川義明会長(10日)、時事通信社斎藤大新潟支局長(15日)、毎日新聞学芸部桐山正寿氏(21日)、蒲原宏氏(26日)
- ・6月=銀座万葉洞大濱正氏(4日)、大阪屋・竹中慶久取締役企画室長(7日)北区郷土博物館伊豆名学芸員(11日)、日本画家大矢紀氏、国際情報大学・雨池誠氏(14日)、佐野明子氏、藤田由明氏他二科会画家4名(18日)新潟書学院・山際栄子氏(21日)、八一の親族・高橋春雄氏、山内ミサオ氏(24日)、書家今井昭友氏、北方文化博物館田中学芸員(28日)
- ・7月=茶道宗徧流・藤田基彦、桑原宗夏、伊海宗洗氏(12日)、石水博物館飯田俊司顧問、蔵前克也事務局次長、高橋真知子県文化政策課長、渡辺和光市議会副議長(13日)、石工左野勝司氏、元読売新聞記者柳林修氏(15日)、風景館女将関谷庸子氏(15日)、樋木尚一郎氏、新潟県文化行政課佐藤友子氏(16日)斎藤直日本文理高校事務長(18日)、武者小路千家千宗屋次期家元、江戸千家・川上博之氏と中野宗順氏(24日)
- ・8月=石水博物館川喜田淑理事、同学芸員龍泉寺由佳氏(2日)、巻菱湖記念館磯島氏、中央図書館高橋恵子氏(7日)、野浦双葉座新潟公演後藤一史実行委員長(18日)、新潟県書道協会伊藤省風氏(19日)、立正大学社会福祉学部講師澤渡貞男氏(20日)、兵庫県豊國市議4名(24日)
- ・9月=SECOM竹田正弘社長(2日)、大阪屋岡嘉雄社長(3日)、松村茂樹大妻女子大教授(6日)、胎内市小谷太一郎教育長、同池田涉教委生涯学習課長、中条八一会・高橋与兵衛会長(7日)、シネウインド斎藤代表(9日)、学習院大学荒川正明教授と夫人、蒔谷龍夫氏、安藤哲也氏、池田記念美術館事務局長(11日)日本絵手紙協会谷雅子氏(13日)、海藤隆吉・美和夫妻、山田俊幸・元帝塚山学院大教授、小学館矢沢寛氏、河治和香氏(22日)、版画家吉田志麻氏(23日)、中条八一会中野隆一氏、北方文化博物館伊藤勝也副館長(24日)、
- ・10月=石州流下坂玉起氏(16日)、阿部弘正倉院元事務所長(19日)
- ・11月=刻字家薄田東仙氏(3日)、新潟日報読者文芸詩選者八木忠栄氏、同コント選者・芥川賞作家宮原昭夫氏・同夫人(5日)、梶山弘子藝游会代表理事(8日)、TeNY土田雅之氏(13日)、文科省高校書道教科書調査官

中野遵氏（17日）、写真家浅井慎平氏、早稲田大学會津八一記念博物館副館長川尻昭生教授、同館事務長今村昭一氏（30日）

- ・12月＝映画評論家佐藤忠男氏（11日）、滋賀県文化振興課課長補佐野瀬千晴氏（19日）、新潟県立大学高久由美教授（21日）、新潟県議会議員渡辺惇夫氏（25日）、書家菊田竹子氏（27日）
- ・28年1月＝新潟大学旭町展示館橋本館長（9日）、新潟市新津美術館横山秀樹館長（24日）、早稲田大学會津八一記念博物館助手・徳泉さち氏（25日）、ノンフィクションライター貴田正子氏（27日）
- ・2月＝徳島文学書道館大林佳代、立石充両学芸員（6日）、新潟県立近代美術館徳永健一館長（7日）、新潟市鳥屋野公民館吉田館長、旗野博氏（14日）
- ・3月＝セコム元井悦朗顧問、営業開発部吉崎克己部長（1日）、イラストレーター神田亜美氏、煎茶集団櫻美会代表山岸石聲氏（24日）、中村屋サロン美術館・河野奈美江事務長、中澤瞳学芸員補（25日）

（ウ）講演会事業

【記念館自主企画】

- ①八一祭記念講演会（有料 500円）
テーマ：「作る数寄者―光悦、半泥子」
講師：千宗屋氏（武者小路千家15代家元後嗣）
日時：平成28年8月2日（火） 午後2時～3時30分
会場：日報ホール
入場者：250人
- ②特別展記念講演会（有料 500円）
講師・演題：龍泉寺由佳氏（石水博物館主任学芸員）「川喜田半泥子の人と芸術について」
喜嶋奈津代（新潟市會津八一記念館主査学芸員）「會津八一と川喜田半泥子」
日時：平成28年9月9日（金） 午後2時～4時20分
会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム
定員：95人
- ③企画展関連 第1回文芸講演会（有料 500円）
テーマ：「新潟の風土と短歌」
講師：高野公彦氏（新潟日報短歌選者「コスモス」編集人）
日時：平成28年4月21日（木） 午後2時～3時30分
会場：日報ホール
入場者：103人
- ④企画展関連 第2回文芸講演会（有料 500円）
テーマ：「記憶の中の會津八一先生」
講師：蒲原宏氏（医師、俳誌「雪」主宰）
日時：平成28年5月26日（木） 午後2時～3時30分
会場：日報ホール
入場者：139人
- ⑤企画展関連 第3回文芸講演会（有料 500円）
講師：阿部弘氏（元宮内庁正倉院事務所長）
日時：平成28年10月19日（水） 午後2時～3時30分
会場：日報ホール
入場者：107人

⑥企画展関連 イベント 小林正樹監督 関連映画 DVD 上映 (無料)

映 画:「切腹」

日 時:平成28年11月2日(水)午後1時30分~4時

入場者:28人

映 画:「化石」

日 時:平成28年11月9日(水)午後1時30分~5時

入場者:32人

上映会+館長講演会(有料500円)

映 画:「會津八一 歌と書の世界」

日 時:平成28年11月16日(水)午後2時~4時

入場者:48人

⑦刻字体験講座(有料1,500円)

講 師:薄田東仙氏(日本刻字協会会長)

日 時:平成29年2月23日(木)24日(金) 午後1時~3時

会 場:會津八一記念館会議室と映像ルーム

入場者:各回14人

⑧企画展関連 第4回文芸講演会(有料500円)

講 師:松丸道雄氏(東京大学名誉教授)

日 時:平成29年3月9日(木)午後2時~3時30分

会 場:日報ホール

入場者:79人

(エ) 普及活動事業

①作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展=講師:喜嶋、湯浅学芸員

企画展会期中 第2、4日曜日 午前11時~正午

特別展会期中 毎週土・日曜日 午前11時~正午

②出前講座=その他の団体主催による講演

- ・ 5月17日(火) 講演:「會津八一の魅力」
主催:新潟県退職公務員連盟 会場:じょいあす新潟会館 解説:湯浅学芸員 40人
- ・ 5月28日(土) 小川恒子氏 喜寿記念コンサート 會津八一の歌の解説
主催:ベッヒライン・コンサート 会場:だいしホール 解説:喜嶋学芸員 300人
- ・ 7月4日(月) 市政さわやかトーク便 講演:「會津八一の魅力」
主催と会場:西蒲区峰岡公民館 講師:高岡事務長 90人
- ・ 7月13日(水) 市政さわやかトーク便 講演:「名誉市民 會津八一の魅力~歌碑へのこだわり~」
主催:ぶっくスワンの会 会場:新潟県立図書館共同研修室 講師:喜嶋学芸員 15人
- ・ 7月22日(金) 講演:「會津八一の敗戦論」
主催:にいがた市民大学 会場:クロスパルにいがた 講師:湯浅学芸員 50人
- ・ 9月24日(土) 講演:「會津八一と川喜田半泥子」
主催と会場:にいがた文化の記憶館 講師:喜嶋学芸員 20人
- ・ 11月6日(日) 講演:「會津八一の美学」

- 主催と会場：石水博物館 講師：神林館長 70人
- ・ 11月8日(火) 講演：「會津八一の魅力 胎内市ゆかりの文人」
主催：知新大学 会場：胎内市中央公民館 講師：湯浅学芸員 45人
 - ・ 11月13日(日)～15日(火) 同行解説「奈良を愛した會津八一と錦秋の古寺」
主催：朝日旅行 解説：喜嶋学芸員 10人
 - ・ 11月22日(火) 講演「會津八一について」
主催：中条會津八一会 会場：胎内市立黒川小学校 講師：喜嶋学芸員 50人
 - ・ 平成29年
 - 2月11日(土) 講演：「棟方志功と會津八一」
主催：荻川コミュニティ振興協議会生涯学習部 会場：荻川コミュニティセンター 講師：喜嶋学芸員 46人
 - 3月12日(日) 講演：「會津八一の書とは」
主催と会場：徳島県立文学書道館 講師：神林館長 80人
 - 3月25日(土) 講演：「會津八一の魅力」
主催：新潟文化財鑑賞会 会場：クロスパルにいがた 講師：湯浅学芸員 40人

③所蔵品貸出展覧会

- ・「戦争を描く一ふるさと作家展一」
7月7日(木)～10月4日(火) 所蔵品1点貸出 新潟市立中央図書館
- ・「生誕100年 映画監督・小林正樹」
7月16日(土)～9月15日(土) 所蔵品5点貸出 世田谷文学館(東京都世田谷区)
- ・「會津八一と川喜田半泥子一独往と無茶の交流一」
10月7日(金)～12月4日(日) 所蔵品55点貸出 石水博物館(三重県津市)
- ・「～絵と写真でつづる～新潟ノスタルジア」
12月9日(金)～平成29年1月29日(日) 所蔵品1点貸出 にいがた文化の記憶館
- ・「あふれる詩情 會津八一の書」
平成29年2月16日(木)～3月20日(月・祝) 所蔵品66点貸出 徳島県立文学書道館(徳島県徳島市)

④ 第9回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

| 会場 | 開催期間 | 補足 |
|-----------------|---------------|------------------------|
| 早稲田大学會津八一記念博物館 | 4月1日 4月23日 | 入賞作品7点 |
| 奈良県立図書情報館 | 5月17日 5月29日 | 入賞入選作品30点 |
| いかるがホール(奈良県斑鳩町) | 6月2日 6月10日 | 入賞作品7点 |
| 中村屋サロン美術館 | 7月30日 8月14日 | 入選入賞作品30点 |
| 石水博物館 | 10月7日 12月4日 | 1から8回大賞作品8点 |
| 胎内市産業文化会館 | 11月11日 11月13日 | 入賞入選30点+胎内市在住者過去入賞入選作品 |

⑤出版関係

- ・『東アジアにおける<書の美学>の伝統と変容』刊行
編者：神林恒道會津八一記念館館長、萱のり子東京学芸大学教授、角田勝久新潟大学准教授
発行：三元社
国際シンポジウム 東アジア<書の美学>で発表した研究論文を収録

※鎌倉女子大学入学試験問題（I期B日程）国語

神林館長の基調論文「書の美学 東西の美の間で」が試験問題として出題される

- ・八一往復書簡集「雁魚来往」第4集の刊行
編者：雁魚来往研究会（渡辺恒美、近藤悠子、角田勝久各氏）
発行：會津八一記念館
映画監督・小林正樹、写真家・小川晴暘、土門拳、入江泰吉、三浦寅吉らと會津八一との往復書簡の読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載。

⑥そのほか

- ・博物館実習受け入れ
期間：平成29年1月17日～22日
学生：新潟大学教育学部書道科 4年生 1人

(オ) 学習講座（参加者負担）

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館 毎月第1土曜日 受講者 18人

(カ) イベント

- 「會津八一の歌を映す」第10回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費2,483,104円）
 - ・公募期間 4月から11月（作品搬入11月4日～15日）
 - ・応募点数 187点
 - ・応募人数 124人（県内80人 県外44人）
 - ・審査委員 浅井慎平（委員長）、塚原史、若松保広、和泉久子、神林恒道の5氏
 - ・審査会 11月30日（水） 14時～17時 メディアシップ 6階 会議室
 - ・審査結果 秋艸道人賞に新発田市の中林重英さん
奨励賞は7点（合計7人、県内3人、県外4人）入選は23点（合計21人、県内16人）
 - ・記者発表 12月1日 午前10時～
新潟市政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、高岡事務長
 - ・授賞式、作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
29年2月10日（金祝） 午後2時～4時 ホテル日航新潟 参加人数90人
 - ・祝賀会（参加者負担） 午後4時30分～6時30分 ホテル日航新潟 参加人数47人

(キ) 鑑定会（経費186,896円）

春の部 平成28年6月5日（日） 総点数32点 認定数 21点 収入880,000円
秋の部 平成28年10月23日（日） 総点数13点 認定数 8点 収入370,000円

(ク) 新収蔵品

- 寄贈 會津八一の墨蹟 30点（松本昭氏、岡本光氏コレクション）
會津八一書簡 12通
吉野秀雄の墨蹟 ほか 33点（小竹久爾・八重氏コレクション）
吉野秀雄書簡 148通（小竹久爾・八重氏コレクション）
會津八一旧蔵 自用印 1点
合計224点
- 購入 會津八一の墨蹟（書） 1点
會津八一の墨蹟（画賛） 1点
會津八一の志賀直哉宛て書簡（はがき）2通

(ケ) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間28年度（28年4-5月、29年2-3月）
額装6点 未表装1点 色紙10点 販売合計112,034円

・オリジナルグッズ制作 学規をあしらった一筆箋 定価 400 円 (税込み)

(コ) 広報活動

①新聞

〔新潟日報〕 記事 55 回 広告 125 回 (複製学規 27 回 展覧会 98 回)
〔朝日新聞〕 記事 3 回
〔毎日新聞〕 記事 2 回
〔日経新聞〕 記事 2 回

②テレビ、ラジオ

〔BSN新潟放送〕

○會津八一没後 60 年記念特別展

・ラジオ告知 30 秒 (1) 前売券発売中 Ver 6/15~7/14 97 本
(2) 開催中 Ver 7/15~9/25 77 本

・テレビニュース「Nスタ」

(1) 7/14 開場式・明日から開催告知

(2) 8/2 武者小路千家次期家元・千宗屋氏特別講演会の模様

・ラジオ番組特集「午後一番すっきりワイド」10分

7/18 喜嶋芸員出演による見どころ解説と告知

③市報にいがた

展覧会、講演募集 = 7 回

(サ) 学校団体見学

19 校 408 人 = 小学校 2 校、中学校 12 校、高校 3 校、中高 1 校、支援校 1 校

| | | | | | |
|----------|---------------|------|-----------|--------------|------|
| 4 月 22 日 | 新潟市小合中学校 | 21 人 | 6 月 10 日 | 清心女子中学・高校 | 22 人 |
| 4 月 26 日 | 新潟市関屋中学校 | 51 人 | 7 月 22 日 | 埼玉県大宮市立光陵高校 | 79 人 |
| | 新潟市中野小屋中学校 | 7 人 | 9 月 15 日 | 長岡市立高等総合支援学校 | 14 人 |
| 27 日 | 会津若松市立一箕中学校 | 5 人 | 10 月 28 日 | 新潟市立新津第二中学校 | 16 人 |
| 5 月 13 日 | 新潟市立坂井輪中学校 | 10 人 | 11 月 4 日 | 新潟市立濁川小学校 | 25 人 |
| 5 月 18 日 | 新潟市立黒埼中学校 | 4 人 | 11 月 10 日 | 新潟市立小瀬小学校 | 14 人 |
| | 新潟市立上山中学校 | 4 人 | | | |
| 5 月 20 日 | 新潟市立臼井中学校 | 15 人 | | | |
| | 東京学館新潟高校 | 41 人 | | | |
| 5 月 24 日 | 新潟市立小針中学校 | 21 人 | | | |
| | 新潟市立新津第 5 中学校 | 39 人 | | | |
| 27 日 | 新潟市立赤塚中学校 | 12 人 | | | |
| 6 月 5 日 | 中越高校 | 8 人 | | | |